

# 音声カードについて

児童が「英語の言い方を確かめたい」「言えるようになりたい」と感じたときに、いつでも自分の GIGA 端末を活用して英語表現に慣れ親しむことができる環境を整えておくことで、児童の主体的な学びを促します。

## ① 単元で扱う言語材料について考え、カテゴリーごとに必要な絵カードを整理する

例) 2年生 Unit3 『絵本をしょうかいしよう』



## ② 学習支援ソフトなどの録音機能を活用し、絵カードごとに英語表現を録音する

単に、その語を表す英語表現を取り入れることも考えられますが、単元最終の言語活動を想定した表現を工夫して取り入れることで、児童にとって言語活動につながるものとなります。

また、同じ絵カードでも、その言語材料が扱われる単元によって表現を工夫し活用する。

例)



2年生 Unit2 『サラダで元気』

A・B : "tomato"  
A : Tomato, please.  
B : How many?  
A : Two, please.

やり取りのモデルを示して

3年生 Unit4 『I like blue.』

A : "tomato"  
I like tomatoes.  
Do you like tomatoes?]

児童とのやり取りをイメージして

## ③ カテゴリーごとに共有フォルダに取り入れ、必要に応じて児童は個人フォルダに保存する

野さい	野さい
動物	動物
数	数
食べもの	食べもの
色	色
気分	気分
フルーツ	フルーツ
スポーツ	スポーツ

※学年ごと、単元ごとに整理しておくことで、  
児童自身もこれまでの学習を簡単に振り返ることができます。

これらのカードは、音声カードとしてだけでなく、児童が自分の考えや気持ちをよりよく伝えるための資料として活用も可能です。児童の様々な言語活動の場面をあらかじめ想定して、様々な形式で児童に教材を提供し、児童の学び方にあった活用ができるように環境づくりを行いましょう。